

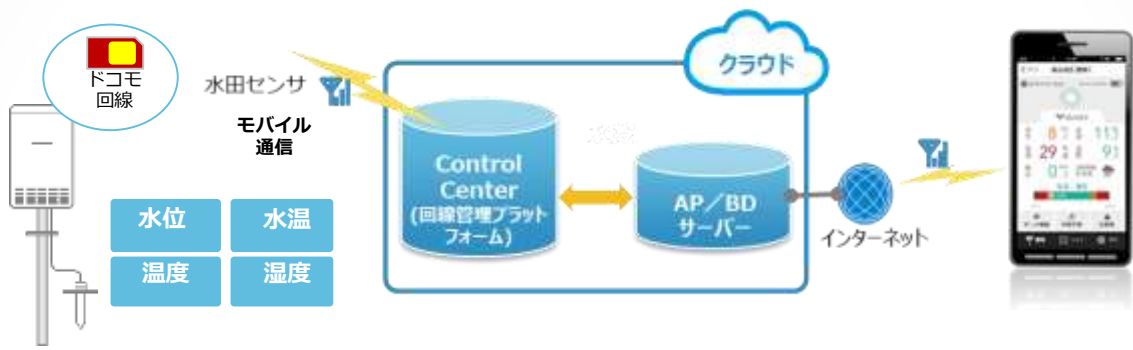
水稲向けセンサを用いた管理システムの導入

農事組合法人仙台イーストカントリー

〈2018年12月19日作成〉

システム概要

- ①センサで圃場の水位・水温・温度・湿度を測定。
- ②タブレットやスマートフォン等を使って遠隔地から圃場の状況を確認。
- ③取得した情報から、効率的に農薬・肥料散布、病害虫・高温障害対策などを行える。



導入経過・背景

- 2016年度宮城県仙台普及センター管轄の水田実証事業で、水田センサーの水管理について効果を確認したことから、導入の検討を始める。
- 2017年度より事務所から10km以上離れた遠地の水田に導入する。2018年度以降も継続利用。

導入者コメント（効果・課題等）

- これまで水管理に毎日往復1時間半以上時間を費やしていたが、本システムを導入後は隔日となり、生産コストの低減に大変有効であると考えている。
- 蓄積するデータを解析して、作業内容にどのように活用すべきか検討を要する。